

夢サラダ Vol.53

2013.3.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。

「今治市民活動センター」

指定管理者: (特非) 今治 NPO サポートセンター

【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234

E-mail imanpo@nifty.com



高校生目線でNPOを伝える！

市民活動リポーター

～思いをカタチへ～

「地域課題を解決したい」「暮らしやすいまちにしたい」
様々なNPOの思いをカタチにしようと始まったプロジェクト。

「伝えたいけど、伝わらない」NPOの現場から聞こえる声。
ならば・・・、私たちが伝えるお手伝いをしよう！！
学習・体験、そしてカタチへ。高校生のチャレンジを報告します。

第2弾

今治北高等学校の生徒 7 名 が市民活動リポーターに！



技術よりも、聞き取る姿勢が大事とアドバイスする宮野氏。



まず、取材の前にプロのテクニックを！

愛媛新聞社今治支社の協力を得て、現役の新聞記者宮野編集部長から「思いをカタチにする方法」をテーマに取材のコツを学びました。取材の流れをおさえ、事前準備の大切さを認識した高校生たち。「人の生（ナマ）の話がない記事は面白くない」と、相手に直接、聞くことの大切さをおさえ、リポーターの本格始動です！

取材先決定！

○いまばり男子厨房に入る会

○今治市中心市街地再生協議会にぎわい部会



いざ 市民活動の現場へ！



取材

質問づくり、取材時の役割分担等、準備もばっちり！



世間話で話しやすい雰囲気をつくったり、応対の中でずいぶん質問を投げかけたり、立派！思いを引き出すために大奮闘！！



団体の思いを社会へ発信

映像で発信



広報 VTR づくりに挑戦！
iPad を利用し、3 分間の広報 VTR を取材先の団体と一緒に製作します。

最新のツールを使った発信方法に、高校生の若い感性が大活躍！わかりやすい団体の PR 映像が完成しました。



ラジオで発信

夢サラダで発信
中面につづく



収録中
in FM ラジオバリバリ

ラジオのパーソナリティに挑戦！抑揚ある発声は放送部のスキルが活かしました。アドリブもあって、バッチリ。



「団体名に社会背景を感じた」「エリアを絞った活動に惹かれた」等、取材先に選んだ理由は、団体への応援メッセージ。

市民活動リポーター募集します！！

平成 25 年度市民活動リポーターを募集します。今治市内で活動する市民活動団体・NPO を一緒に取材し、ラジオや機関誌で発信してみませんか？きっとあなたの世界が広がるはずです！

対象 今治市内の学校に通う高校生・大学生

期間 5 月から 10 月頃まで

募集締切：2013 年 5 月上旬

同時に取材先の団体も募集しています！

団体の活動を知ってもらふチャンスです。高校生の目線から、フレッシュな発信をしてもらいたい方、是非、ご一報ください。

はやい! うまい! が僕の味

入る会

～男子厨房に入るべからず～

近年、女性の社会進出が進み、職場等での活躍が見られる。しかし、視点をかえると家庭生活...とくに食事づくりでは性別役割が固定されている。男女共同参画推進事業の一環として「男性(夫)も台所に立とう」という意識をもってもらおうと活動している **いまばり男子厨房に入る会** にお話を聞いた。



What is 男子厨房に入る会?

- ✿ “はやくて、うまいが僕の味”のキャッチフレーズのもと、男女5名で発足。“男子厨房に入るべからず”の古きことわざを打破し、この会の名前となった。
- ✿ 食の安全、安心を求め、地産地消のもと、今治産の旬の食材を取り入れ、年9回の料理教室を行っている。また、特産のタオル地でエプロンを作成し、PRにも努めている。
- ✿ 20名の男性会員の、年齢・職業・動機はさまざま。料理実習を経験し、食事作りや予算内での買い物の大変さや1つの作品が出来るとの楽しさなどを感じているようだ。

おかしーっ! 実際は訪問!



今回のメニューは

【あげだし豆腐 ツナサラダ】
【豚じる おもじりめし】

メニューは栄養のバランス・食材の旬を考え、1人500円以内のものを。また、1つの作業でできる簡単なものを選んでいる。

みなさん、真剣に
楽しくやてます →



本日の晩ごはん!!!



ついにできあがりーっ!
おいしー (じゅり)

いまばり男子厨房に入る会

TEL/FAX 0898-32-0930 (西原)

編集後記

- ✿ 「男子厨房に入る会」。なんておもしろい名前だろう、と思ったのがきっかけで取材先に選びました。取材先では想像以上に生き生きと料理に取り組む男性方が見られて驚きました。およばれたご飯、すごくおいしかったです!

上田悠加・山岡華子・壺内晴香

インタビュー

★向島武史さん(35歳)

「子どもに料理がおいしくないと言われたのがきっかけで参加しました。魚をさばいたのが印象に残ってます。」

★妹尾紀男さん(72歳)

「奥さんが亡くなってから会に入りました。料理は難しいけれど楽しいです。みんなと話せるのも良い!」

いん ぽん た きびゅー

見よ
このキザバキをっ

しゃばばば



🌸 今治に元気を!!にぎわい部会 🌸

今治を盛り上げるために

今治市中心市街地再生協議会にぎわい部会は今治市を盛り上げるため、まずは、「港」「広小路」「商店街」などの中心市街地のシンボルチックなエリアからの活性化を図っている官民協働の協議会だ。

イベントの開催や土曜夜市への協力の他、主催イベントとして「シンボル広小路」を開催している。徐々に成果は出ており、中心市街地が楽しむ空間へと変わりつつあるのだ。

まちなかに「にぎわい」や「コミュニティ」を生み出していく活動取材した。

仕掛け① 緑のテント「一坪ブース」

土曜夜市で、緑色のテントを見かけたことがあるだろう。通称「一坪ブース」と呼ばれているこのブースは、にぎわい部会の協力を得て一般市民が出店したブースだ。昔のおもちゃを作って売っているブースなどが見られる。

独力で出店することは難しくても、出店の意思がある有志の人たちに協力することで、市民とにぎわい部会が一体となった「にぎわいづくり」につながっている。



一坪ブースの様子。子どもの笑顔も多く見られた▲

仕掛け② 動く市場!?「軽トラ市」

昨年10月に開催した「シンボル広小路」。目玉となっているのが広小路側道部分に並ぶ「軽トラ市」だ。こちらはその名の通り、軽トラックをそのまま屋台にする取組で、準備や撤収の手間が省け、手軽に出店できることがメリットである。2年目となる今回は約60台もの屋台が並んだ。

イベントの周知も充実し、来訪者も増えた。斬新な発想により実現した「軽トラ市」の今後に注目したい。



側道に並んだ軽トラ市。いつもとはまるで違う風景▲

にぎわいの形

中心市街地にスポットをあてたイベントで、今治市の活性化に取り組むにぎわい部会。同部会の部会長を務める作田憲一さんは、イベントなどでの活動の重要性とともに、「それだけではいけない」と語っている。にぎわい部会の目指す「にぎわい」とは、イベントのときのみ、一時のみににぎわいではなく、日常的に人々ににぎわい、楽しみが持続する本当の意味での再生である。

イベントで人々に集まる機会をつくり、それをきっかけに楽しい空間創出へ知恵を絞り、しくみにする。

今治に本当のにぎわいを取り戻すまで、にぎわい部会の活動は続く。



▲にぎわい部会の部会長、作田憲一さん。

今治市中心市街地再生協議会HP <http://chuushin-imabari.jp>

編集後記

土曜夜市のチラシに、「今治市中心市街地再生協議会にぎわい部会」の名前を発見したのが、取材を始めるきっかけだった。今治に元気を取り戻すための活動も気になったが、中心市街地という名前が目をつけた。

漠然と今治全体を捉えるのではなく、その中心である中心市街地に焦点をあてて活動しているところに、より具体的な印象を持った。

今治市ににぎわいが取り戻されるまで、にぎわい部会の活動は続く。笑顔が取り戻されるまで戦い続けるヒーローを思わせるにぎわい部会を、もっと多くの人に知ってもらいたいと思う。

森松晃紀 越智芽生 越智香那恵

とうよ協働推進フォーラム
東予発！築こう つなごう
未来の郷土

活力ある地域実現に多様な主体の参画による地域づくりが求められます。多様化する課題解決に、市民・行政・企業が強みを活かし合う「協働」は必須とも言えます。

フォーラムの目玉は「協働グランプリ in とうよ」。8つの協働事例に、来場者 400 名が聞き入りました。



グランプリを決めるのは来場者！

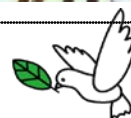
「ボランティアをしたいけど、きっかけがない」

若者を中心に社会貢献意欲は高まるも、実際の活動参加にはつながっていない現状があります。担い手不足の現場と共感者をつなぐきっかけになれば・・・、そんな願いを込めて開催しました。

来場者は、8つの協働事例を聞き、「応援したいな」と思ったところに投票。獲得票数が多いところをグランプリに選ぶというしくみです。



● 各団体 4 分間で活動を P.R です ●



▲療育音楽活動サークル「カノン」
× 地元施設・行政・子育てサークル
子育て応援のハブ団体として活躍。キャラクター＆歌もタイアップ。



▲御島ガイドの会
× 社協・地元NPO
観光ガイド活動の知識で移住者支援も。学生の学びにも一役。

e ワーク愛媛 × 行政・地元企業
リヤカー引き売りをしくみ化。若者等の就労支援は買物弱者支援にも。



▲ふれあいステーションきくま
× JR四国・地元団体
地元・JR四国双方の願いが一致した「無人駅」の新たな利用。



西条高等学校商業科
× 地元企業・ソムリエ
ご当地バーガーの商品化。
▼先輩から後輩へ受継ぐ価値。



▲上島ポップコーンの会 × 行政・商工会
離島4島連携による障がい者(児)の自立支援。分業は協働の一つの形。



▲お話し会 苺 × 行政・児童館
乳幼児健診の場にスキルを活かして参画。活動拡充が効果。



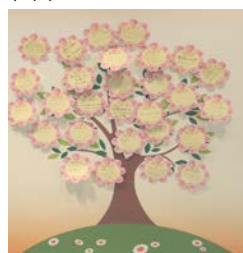
▲今治ぎょしょく推進PJ
× 大学・地元NPO
魚離れ・野菜不足の子育て世代を魅力あるカリキュラム(WS)で応援。



- ★グランプリ ふれあいステーションきくま
- ★準グランプリ 西条高等学校商業科
- ★実行委員長賞 e ワーク愛媛



▲投票シーン・3枚のシールは「共感」の印



▲メッセージボードにはたくさんの花が咲きました。

エントリーしてくれた8団体の発表を通して、一朝一夕には解決し得ない地域課題に向き合う中で、「協働」はおのずと必要になることを再確認しました。来場者はその活動内容を聞き、自らが評価。そして、「できること」をメッセージに託しました。初めて知った活動もあったはず。「身近な活動への参加を促すきっかけになっていれば・・・」、また「会場内での出会いが次への交流や協働につながれば・・・」、そんな願いを抱きながら、催しを終えました。